

# 寺社を巡る会

## 活動記録書

開催日： 令和5年6月1日(木) 晴れ	開催テーマ： あじさいの道
開催場所：横浜市金沢区	記入者：松崎 寛
参加人数： 会 員 25名、準会員 0名 合 計	25名
<p>コース：シーサイドライソ海の公園柴口(集合)→熊野神社→寶蔵院(本堂昇堂拝観)→金沢八景大橋→八景島→アメリカン・アンカレッジ記念碑→シーサイドライソ八景島駅(解散)</p> <p>雨が続くなか、当日は晴れた日となり歩くのにちょうど良い天気であった。 シーサイドライソ海の公園柴口に集合。まずは、熊野神社のある権現山に向かう。山裾で、昭和5年開設の遊園地を併設した割烹旅館「金沢園」を裏側から見る。今はカフェとなっている。</p> <p>柴町は古くから漁村である。人々は、浜の集落や漁場を見下ろす山の上に、海の守り神として、紀州の熊野三社を勧請して、篤く守り続けてきた。もとは柴岬大権現と称し、明治の神仏分離令により熊野神社となる。石段下の鳥居に水神社と稲荷社、長い階段のうち63段目に石仏不動、残り73段を上って拝殿前に着く。皆さん元気に登られた。大正14年に本殿が出来るまでは、社殿として今の拝殿だけであった。応長元年(1311)この附近一帯の海岸は大津波にあったが、柴町は熊野大権現のおかげで無事であった。本殿の脇に、火伏の神である秋葉三尺坊大権現が祀られている。上った階段とは別の坂道を下り、寶蔵院に向かう。</p> <p>寶蔵院は、此木山(シモクサン)西方寺(サイホウジ)と号し、真言宗御室派。本尊は大日如来。創建年代等は不明であるが、江戸時代の元禄2年(1869)に伝宵(1710年寂)が中興したとの記録がある。上述の応長元年の大津波により長浜千軒の村の漁民は、銀杏のかがり火を目当てに「此の木の下」に避難した。これが山号と此と木が組み合った柴村のいわれとされる。本堂に昇堂して、本尊や阿弥陀三尊像(伝行基作)等を拝観した。寄進の諸像から、住民の篤い信仰をみつめていることが分かる。金沢七福神では寿老人。</p> <p>八景大橋を渡って、八景島へ。八景島は、面積は約24万平方メートル。島全体が横浜市の厚生施設となっているため、島には無料で入れる。2万株もあるアジサイは咲き始めではあるが、充分楽しめた。西洋アジサイとガクアジサイが並ぶ。特徴的な「カシワバアジサイ」や「ピンクアナベル」が印象に残った。丘の広場のバラも綺麗。閉鎖された東京の豊島園から三つのアトラクションが移されたそうだ。</p> <p>ペリー提督が来航した際、艦隊が小柴沖に錨を下ろし碇泊した。また、安政5年(1858)には小柴沖のポーハタン号で「日米修好通商条約」を締結調印した。その場所をペリー提督は「アメリカン・アンカレッジ」と名付けていた。そこを望む八景島客船ターミナルの先に記念碑が設置されている。開港ゆかりの地として、ここももっと広く知られて良いと思う。 最後は、シーサイドライソ八景島駅で解散した。</p>	
参加者の状況・意見など： 132段の熊野神社以外は、比較的歩きやすい道であり、初夏の寺社とアジサイを満喫できた。解散後の昼食会にも20人も参加し、楽しい時を過ごした。	
次回の予定： 令和5年7月6日(木) 10時 京急「岐れ路」バス停 テーマ「鎌倉公方ゆかりの地を歩く」	